

フェミニストアーティストグループの明日少女隊、
「トランスの権利」をテーマに、
東京にてアート・パフォーマンス、およびオンライン・イベントを開催



「トランスの権利」をめぐる議論が世界的に巻き起こる中、第四波フェミニストアート・グループ明日少女隊は、「フェミニズムはトランスと共に」を訴え、女性の権利とトランスの権利（そしてそれを包括するLGBTの権利）両方の推進に向けて働きかけることを目的とし、マーチ・パフォーマンス「私のことは私が決める」、およびオンライン・イベント「フェミニズムはトランスと共に・トランスの権利をめぐるグローバルな戦い」を開催します。

11月27日(日): マーチ・パフォーマンス「私のことは私が決める」トランスジェンダー当事者であり、全米トランス・ライツ・アクション・デイの発起人のつくる・フォルスさん(米ロサンゼルス在住)と一緒に、マーチ型のアート・パフォーマンスを開催します。スタート(午前11時): 下谷神社前の歩道 〒110-0015 東京都台東区東上野3丁目29-8 → エンド: 日枝神社前の歩道 〒100-0014 東京都千代田区永田町2丁目10-5

(注: 神社の敷地内には入らず、歩道上でのパフォーマンスになります。妨害の可能性が懸念されるため、開催日時や場所は関係者以外には告知しておりません。事前の公開はお控えいただくようお願い申し上げます。)

12月3日(土) 18:30-20:30: オンライン・イベント「フェミニズムはトランスと共に・トランスの権利のグローバルな戦い」

・イントロ・レクチャー「トランスジェンダーってなんだろう？」

明日少女隊(林美美子)

・対談「フェミニズムはトランスと共に・トランスの権利のグローバルな戦い」

ナビゲーター:明日少女隊 (尾崎翠)

<登壇者>

イシヅカユウ(トランス当事者・トランス女性・ファッションモデル)

かなた(トランス当事者・トランス男性・YouTuber)

つくる(トランス当事者・ノンバイナリー・全米トランス・ライツ・アクション・デイ発起人)

佐多稲子(明日少女隊)

◆マーチ・パフォーマンスおよびオンライン・イベントについて

マーチ・パフォーマンスは、「トランスの権利」をテーマに明日少女隊が一般からもパフォーマーをつのり開催します。フェミニスト、トランスの両者が戦っている抑圧の源である家父長制、日本におけるその象徴である神社をスタート、そして終着地とし、フェミニズムとトランスに共通したメッセージを訴えるプラカードを掲げて東京の街をマーチします。オンライン・イベントは、「トランスの権利」、そして女性を含む「ジェンダーの平等」をめぐるグローバルに共通する問題、またジェンダーギャップ指数146か国中116位の日本社会に特徴的な女性の苦悩や痛みにも触れつつ、トランス当事者とアライであるフェミニストの視点からディスカッションを行います。

◆なぜ今、「トランスの権利」なのか？

J・K・ローリング(『ハリー・ポッター』シリーズ著者)など欧米著名人の後押しを受け、TERF(トランス排除型ラディカルフェミニスト)と呼ばれるアンチ・トランスの言説がグローバルにサポートを集める中、日本でも「トイレの問題」などセンシティブなトピックの周辺でアンチ・トランスの声が多く聞かれます。しかし、その一方で、今回、オンライン・イベントにご登壇いただくイシヅカユウさんやかなたさんを筆頭に、「トランス」の可視性が高まっているのも事実です。明日少女隊は、対極ではなく実は隣り合わせにある「トランスの権利」と「女性の権利」の問題にスポットをあて、疑問や問いかけ、ディスカッションを促すことで、「分断」ではなく「団結」を、「対立」ではなく「対話」を訴えます。

◆経緯

明日少女隊は様々な性別の第4世代若手フェミニストによる社会派アートグループです。男性、女性、LGBT、みんなが平等で Happy な社会を！をテーマに発足時から国内外で活動してきました。今回、日本のフェミニズムに焦点をあてた番組の一環としてカナダのテレビ局のドキュメンタリーの取材を受けることになり、それを機に、長年温めていた「トランスの権利」をテーマにパフォーマンスを行うことになりました。

◆「トランスジェンダー」とは

出生時に割り当てられた性別と異なる性自認を持つ人々を指します。自分の性別を「男・女」という二元論で捉えない「ノンバイナリー」もこの一カテゴリーとして包括されます。

明日少女隊ホームページ: <http://ashitashoujo>取材は東京在住の隊員、林芙美子までご連絡ください。f.hayashi@ashitashoujo.com